

2018年12月8日

横浜美術館コレクション展

2019年1月4日(金)ー3月24日(日)「リズム、反響、ノイズ」

横浜美術館

今期のコレクション展では、同時期開催の企画展「イサム・ノグチと長谷川三郎—変わるものと変わらざるもの」に合わせて、クロスジャンルな芸術家たちの交流と、20世紀を通して現代へと至る抽象的な美術表現の展開に焦点をあてた特集展示「リズム、反響、ノイズ」を開催します。

20世紀以降の美術を語る時、それ以前の表現と区別する最も大きな造形上の変化は、抽象的な表現の誕生にあるといえるでしょう。スイスやドイツで始まったダダや、ロシアの構成主義、フランスのキュビズムやイタリアの未来派など、およそ100年前のヨーロッパで同時多発的に発生した抽象的・幾何学的な絵画や彫刻の造形上の実験は、20世紀を通じて、日本はもとより世界中のさまざまな前衛芸術運動に継承されていきます。

こうした20世紀初頭の実験的な芸術運動はまた、美術家だけが牽引したのではなく、詩人や音楽家たちとの協働で実践されました。秩序だった和声に基づく音楽を解体した無調音楽や、言語をその意味から離脱させた音響詩や視覚詩など、音楽や文学における解体と再構成による抽象的・革新的な表現は、美術と連動するように生まれます。さらに、19世紀後半の技術的發展を経て、重要な表現技法のひとつになった写真と、新たに発明された映像とが加わり、20世紀初頭のヨーロッパでは、現代へ連なる多様な芸術表現の素地が、一齊にかたちづくられていったのです。

本展は、これら20世紀初頭のヨーロッパで、革新的な表現を切り拓いた作家たちの作品にはじまり、20世紀後半の日本でその前衛の精神を受け継いだともいえる具体美術協会や、写真表現におけるアレブレなど、戦後の前衛的な作品の展示へと続きます。さらに1990年代以降の日本画における革新的な試みや、現代を生きる美術家たちの作品を紹介します。リズムと反響、ノイズなど、解体された音楽の要素さながらに、色彩と形態に解体され、抽象化や再構成が試みられていった20世紀以降の多様な美術の表現をお楽しみください。

展示構成-----

- I. それは100年前にはじまった—抽象の実験
- II. ひびきあうかたちと引っ掻かれたかたち—戦後の前衛
- III. ひらかれるかたち—1990年代以降の日本画を中心に
[特集：莊司福《春律》]
- IV. 反復のかたち [写真展示室]
[ホワイエ] 特集：宮川香山
[グランドギャラリー] 近代彫刻



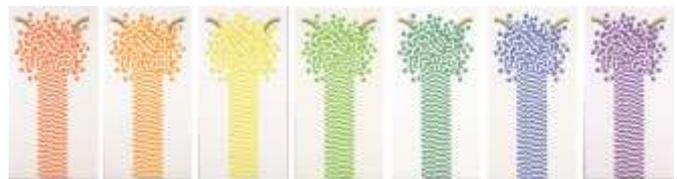
中平 卓馬(1938-2015)
《サーキュレーション—日付、場所、イベント》
1971(昭和46)年(2003年のプリント)
ゼラチン・シルバー・プリント 32.5×42.6cm
中平卓馬氏寄贈



ガブリエーレ・ムンター(1877-1962)
《抽象的コンポジション》1917年
油彩、板 23.4×59.4cm



マコト・フジムラ(1960年生まれ)
《復活2》1992(平成4)年
岩絵具、膠、麻紙、箔、砂子
各90.0×30.0cm(22枚)、200.0×15.0cm、10.0×160.0cm
《Junan Panel Series #32》1991(平成3)年
岩絵具、膠、麻紙 25.0×25.0cm
いずれも、賛美小舎 上田國昭氏・上田克子氏寄贈



佐藤 亜土(1936-1995)
《虹の森》1989(平成元年)
シルクスクリーン(7点組) 各87.6×45.2cm
佐藤亜土氏寄贈

展示会のみどころ-----

○企画展と関連したテーマを設定。コレクション展を通じて、企画展をより楽しむ！

クロスジャンルな活躍をしたイサム・ノグチと、日本における抽象絵画の先駆者のひとりである長谷川三郎。本展では、二人と同じ時代を生きた作家たちによる、欧米と日本の抽象的な表現の作品を紹介します。

○八木良太のヨコハマトリエンナーレ 2011 出品作を、新たな展示で紹介

横浜美術館をメイン会場の一つに、3年に一度開催される現代美術の国際展「横浜トリエンナーレ」。その2011年展で発表された作品《ポルタメント（ヴァイオリン、ホーメイ、シンセサイザー）No.2》を、装い新たに大型の映像インスタレーションとして紹介します。また、八木によるトークとパフォーマンス、親子で楽しむワークショップも実施します。

○フォト・ヨコハマ関連企画として写真・映像作品に注目！

2019年1月から3月にかけて、横浜市内各所で開催される写真や映像に関するイベント



「PHOTO YOKOHAMA (フォト・ヨコハマ)」のパートナー・イベントとして多数の写真や映像作品をお楽しみいただきます。

関連イベント-----

○アーティストトーク&パフォーマンス

登壇 : 八木良太
 日時 : 2019年1月20日(日) 14:00~15:30
 会場 : 横浜美術館円形フォーラム
 定員 : 100名(申込不要、先着順)
 参加費 : 無料

○子どものアトリエ・親子講座「音をつなげる、音をひっかく」

コレクション展出品作家の八木良太さんといっしょに、展示室で作品を見たあと、録音・再生装置をつかい、きったり？はったり？音であそんでみよう！
 講師 : 八木良太
 日時 : 2019年1月19日(土) 13:30~15:30 (13:15開場)
 会場 : 横浜美術館子どものアトリエ
 対象 : 小学校1~6年生と保護者
 定員 : 20組(1組3名まで、要事前申込、抽選)
 参加費 : 親子2名で2,000円(1名追加で+500円)
 申込方法 : ウェブサイト申込フォームより

○学芸員やエドゥケーターによるギャラリートーク

日時 : 2019年1月25日、2月8日、22日、3月8日
 いずれも金曜日
 いずれも14:00~14:30
 会場 : コレクション展展示室
 参加費 : 無料(申込不要、当日有効の観覧券が必要)



八木良太(1980年生まれ)《ポルタメント(ヴァイオリン、ホーメイ、シンセサイザー)No.2》2006/2011(平成18/23)年
 オブジェ(陶器、LPレコード)、ビデオ(7分14秒/7分16秒/7分11秒、サウンド、ループ) サイズ可変

基本情報-----

横浜美術館コレクション展 2019年1月4日(金) - 3月24日(日)「リズム、反響、ノイズ」

会場 : 横浜美術館 (〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1)
 TEL : 045-221-0300 FAX : 045-221-0317 <https://yokohama.art.museum/>
 開館時間 : 10:00~18:00 *3月2日(土)は20:30まで (入館は閉館の30分前まで)
 休館日 : 木曜日(2019年3月21日[木・祝]は開館)、1月11日(金)、3月22日(金)
 主催 : 横浜美術館 [公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]
 観覧料 : 一般500(400)円 大学・高校生 300(240)円 中学生 100(80)円 *小学生以下無料

* () 内は有料 20名以上の団体料金(要事前予約)
 *障がい者手帳をお持ちの方と介護の方(1名)は無料
 *毎週土曜日は、高校生以下無料(生徒手帳、学生証をご提示ください)
 *企画展ご観覧当日に限り、企画展の観覧券でコレクション展もご覧いただけます
 *毎月第3月曜日は横浜市在住の65歳以上の方無料(「濱ともカード」をご提示ください)

プレスリリースお問合せ

横浜美術館 広報担当 (水谷、藤井、一色、梅澤)
 〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1
 Tel: 045-221-0319 Fax: 045-221-0317 Email: pr-yma@yaf.or.jp